



現在では田型の使用済収集はごく当たり前のものとなっていますが、田型の使用済を集めるブームが起きたのは今から40数年前のことです。

それまでは単片の切手を中心に集めていた収集家たちが、目新しい、見栄えが良い、コレクションの核になる、などといった理由で文字通り猫も杓子も田型の使用済を求めました。

現行の普通切手から、やがて記念切手にまでその流れが及びましたが、払下げの別納シートが大量に出回っていることもあって、波消しはもとより、大局のローラー消しもあまり人気があるとはいえません。

「ビードロを吹く娘」は、昭和30年11月1日に発行された、当時の切手趣味週間記念切手です。

(記：藤岡 靖朝 (日本郵楽会会員))